日本の世帯属性別貯蓄率の動向について

宇南山卓（一橋大学経済研究所）・大野太郎（信州大学）

概要：
日本では、家計貯蓄率の低下が深刻化しており、国民経済計算によれば 2013 年には家計貯蓄率がマイナスにまで落ち込んでいる。本稿では、この貯蓄率の低下がどのような要因によってもたらされているかを考察をする。経済学における貯蓄の決定理論であるライフサイクル仮説に基づけば、高齢者の貯蓄率はマイナスであり、高齢化が進むにつれてマクロ的な貯蓄率が低下することが予想されている。そこで、特に、現在の貯蓄率の低下が高齢化だけで説明できるのかを検証する。ただし、マクロ統計である国民経済計算とミクロ統計である家計のサーベイデータでは貯蓄率の動向が異なることが知られている。そこで、複数のミクロデータを補完的に用いることで、より国民経済計算と整合的なデータを構築し、世帯属性別のセミマクロデータによって貯蓄率の推移の決定要因を明らかにする。